

令和7年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）						対象年度		令和6年度				
事業番号	73	事業名	包括的支援情報連携事業			担当課		福祉政策課				
			(中事業名) 地域共生社会推進事業			予算区分（款-項-目-中事業）		3-1-1-11 地域共生社会推進事業				
I 基 本 情 報	総 合 計 画	基本目標	4 「誰もがいきいきと安心して暮らせるまち」	4 「誰もがいきいきと安心して暮らせるまち」								
		政策	1 「住み慣れた場所で安心して暮らすことができる地域づくり」	2 「地域の課題をみんなで解決」								
		施策	(1) 「くらしを支える生活基盤の充実」	(2) 「市民が気軽に身近で相談できる場づくり」								
	その 他	開始年度	平成30年度									
		終了予定年度		<input checked="" type="checkbox"/> 未定	市民・民間事業者との連携協働の可能性					両者と協働可		
		根拠法令等										
関連計画 長久手市地域福祉計画、長久手市重層的支援体制整備事業実施要綱												
①事業概要 (どんな取組を行うのか) 【対象】 <input checked="" type="checkbox"/> 市民 <input type="checkbox"/> 事業者 <input type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> その他 対象の数： 60,000 【事業内容】 市民の複雑化・複合化した問題に対応するため、関係機関の情報共有・連携を円滑に行うための包括的な相談情報連携の仕組みを構築します。			アウトプット（詳細はⅡへ） ②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。また、それがどうなるのか) 【アクションプラン指標】 支援プラン作成件数【単年】 ... ➔ 【その他の指標】			アウトカム（詳細はⅢへ） ③中間成果 (①【対象】がどのような状態に変わらるのか) 市民が役割と居場所を感じられるようになり、相談等ができる場所やツールが増える (成果指標名) 支援のために連携した関係者の数を増加させる（支援プランに記載した関係者数）		④最終成果 (大事業の将来像) 一人一人に役割と居場所があり、助けがなかつたら生きていけない人は全力で守られる				
II 活 動 状 況 (ア ウ ト プ ッ ト の 詳 細)	活動指標名			単位	基準値 (2023年) 目標値 (2028年) ※AP指標のみ	区分	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度	R10(2028) 年度	
	1	【アクションプラン指標】 支援プラン作成件数【単年】		件	基準値	186	目標値	185	185	185	185	185
					目標値	185	実績	161				
	2				基準値		目標値					
					目標値		実績					
	3				基準値		目標値					
目標値						実績						
4				基準値		目標値						
				目標値		実績						
事業開始の背景		平成30年度に策定した第2次長久手市地域福祉計画に基づき、「誰もが住み慣れたまちで安心して暮らせるよう、「地域共生社会の推進」のための取組を行っている。										
各年度の取組、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由												
エピソード	R6	令和5年度に包括的支援情報連携システムを、支援者間の報告・連絡・調整をスムーズにするため、実証実験を行ったが、対象者から本人同意が得られない場合、個人情報を載せない状況でしかやりとりができます、多様な機関にシステム導入のメリットを感じてもらうことができなかつたため、システムの本格導入を中止した。今後も支援会議等により支援者間の関係構築を行っていく。 また、支援プラン作成件数が減少しているが、令和6年度から包括化推進員を2人から4人に増員したことにより、支援プラン作成前に相談で終了した案件があったことによる。										R7
	R8											R9

III 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成績指標（C H E C K）	成果指標名（中間成果をはかるもの）		単位	成果指標の推移と目標															
		支援のために連携した関係者の数を増加させる（支援プランに記載した関係者数）	者		4年度	5年度	【現状】	6年度	7年度											
					87	119	167	179	179											
	成果達成状況						指標目標値の根拠													
	B	A.想定より良い B.想定どおり C.どちらともいえない D.想定を下回っている						役割と居場所があり、助けがなかったら生きていけない人が全力で守られる体制を作るためには、制度を超えた多様な機関・人との連携が必要である。現在は連携（ネットワーク）を広げていく時期であり、相談支援、参加支援、地域づくりのいずれも、支援の広がりを測るには「支援のために連携した関係者の数」が適当である。												
	評価の理由、分析																			
	一つの困り事に対し、人（個人）のみならず企業や団体などが複数関係するなど、連携した関係者が確実に増えている。地域の中で普段から関係性を作ることで、困り事等の支援に関わってもらうことも増えているため、引き続き繋がりづくりを行う。																			
	今後の方向性			今後の方向性の理由																
	B	A.拡充 B.現状維持 C.縮小 D.廃止		引き続き、各プロジェクトに取り組み、相談支援、参加支援、地域づくりのための支援を一体的に進めるとともに、重層的支援体制整備事業実施計画の策定、包括的な支援体制の構築を推進していく。																
	改善ポイント (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)																			
加える変化（ACTION）	見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容					見直し可能年度											
	1	長久手市包括化推進協議会実務者会議	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	ケースごとに行う支援会議において、各支援者からの意見等から出てくる市の課題について、実務者会議で議論しているが、今後は、より各課題に応じた支援者を集め新たな支援方策を具体的に検討できるようにする。																
	2		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止																	
	3		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止																	
IV 費用 令和8年度予算の方向性（PLAN）	R8年度の費用（R7年度比）			(単位：千円)																
	B	A.拡充 B.現状維持 C.縮小 D.廃止		事業費	予算	決算	予算	決算	予算											
	理由				50,756	50,337	44,969	51,419	44,325											
	市全体として重層的支援体制整備事業を進めて行くには、支援の一体的な実施が必要となるため、引き続き支援体制の構築が必要。ただし、情報連携については、支援会議等の既存の仕組みの中で実施していく。			特定財源	合計額	29,249	28,439	28,401	28,944											
					(内 国費)	22,435	20,639	19,597	19,840	20,494										
					(内 県費)	9,603	8,510	8,731	8,450	8,450										
					(内 諸収入)	100	100	111	111											
					(内 その他)															
	積算額			一般財源	18,618	21,088	16,530	23,018	15,381											
	未定				R7年度予算の内訳 <細々節名、予算額、(R6年度予算額)>															
				地域共生社会推進事業業務委託 37,381千円 (37,381千円) 会計年度任用職員報酬 2,770千円 (2,542千円) 消耗品費 259千円 (127千円) 地域づくり勉強会講師謝礼 240千円 (120千円) 会計年度任用職員期末手当 579千円 (519千円) 地域共生政策自治体連携機構会費 60千円 (0千円) 特別旅費 338千円 (280千円) 会計年度任用職員勤勉手当 487千円 (435千円) 包括的支援研修講師報償費 60千円 (60千円) ひきこもり支援者研修講師報償費 20千円 (20千円) 普通旅費 10千円 (10千円) 会計年度任用職員通勤費 24千円 (24千円) 印刷製本費 108千円 (108千円) 小型バイク装置保守業務委託 150千円 (150千円) 専門相談委託料 82千円 (82千円) 道路通行料 35千円 (35千円) 地図情報使用料 231千円 (231千円) 研修負担金 50千円 (50千円) 重層的支援体制整備事業アドバイザー報償費 0千円 (20千円) まざって長久手フェスタ会場使用料 0千円 (22千円) 地域づくり勉強会デザイン報償金 0千円 (25千円) 包括化推進協議会委員報償金 103千円 (146千円) 食糧費 29千円 (82千円) まざって長久手フェスタ運営業務委託 0千円 (200千円) 共助型マッチングシステム保守管理委託 1,309千円 (2,300千円)																